

湘南江の島魅力アップ・プラン

平成25年3月

(一部改訂 平成30年3月)

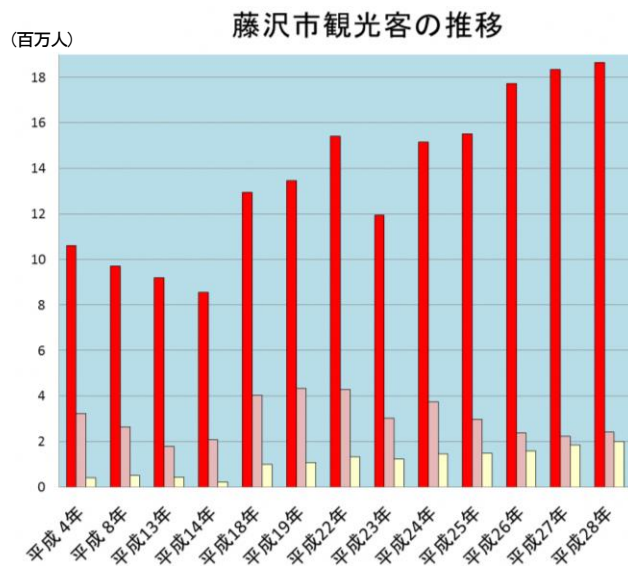
湘南江の島魅力アッププロジェクト推進会議

湘南江の島の魅カアップに向けた取組みについて

1 はじめに

- 「江の島」と片瀬から鵠沼へと続く「湘南海岸」一体のエリアは、日本を代表する風光明媚な海浜観光地であり、首都圏有数の海水浴場として、自然と歴史に富む景勝地として、またマリンスポーツのメッカとして、多くの人々に親しまれています。
- その中心的役割を担っている「江の島」では、平成 15 年に「江の島サムエル・コッキング苑」と「江の島展望灯台」（現在の名称：江の島シーキャンドル）が、また、片瀬西浜海岸では、平成 16 年に「新江ノ島水族館」がリニューアルオープンしました。
- これらの観光施設の再整備や、さまざまなイベントの実施やメディアを利用した PR により、観光客数は飛躍的に増加し、平成 14 年度までは年間 1,000 万人に届かなかったものが、平成 19 年以降は 1,300 万人を超え、平成 22 年以降（東日本大震災が起きた平成 23 年を除く）は、さらに 1,500 万人を超えることになりました。
- このように、江の島への観光客数は順調に推移し、にぎわいを見せており、平成 22 年に江の島の来訪者を対象に実施した観光アンケート調査をみても、江の島の印象としては約 70%の方が満足感を得ています。
- 一方で、交通に関しては、「車の渋滞がひどい」や「駐車場不足」、「駐車場がわかりにくい」などの意見が寄せられています。
- そこで、藤沢市や神奈川県では、県民・市民にとって利用しやすい環境の整備を、引き続き、計画的に進めていくこととしています。
- また、近隣の鎌倉市に來訪する観光客を「湘南江の島」※にも円滑に誘導していく必要があります。
- さらに、平成 23 年 3 月 11 日に発生した東日本大震災を教訓に、多くの観光客が安心して訪れることができるよう、津波等災害時の対策への対応も急がれています。
- こうした安全の確保も含め、「湘南江の島」が今後も国内外の多くの方々安心して訪れ、愛される観光地となるために、新たな観光戦略が求められています。

※「湘南江の島」とは、藤沢市域内の湘南海岸沿岸を含めた江の島周辺の地域をいいます。



■ 総数(年間)
 ■ 総数(年間)海水浴入込数
 ■ 江の島3拠点合計
 3拠点・サムエル・コッキング苑、
 展望灯台、岩屋の合計

	備考
平成2年	サーフ90開催
平成5年	江の島岩屋再開
平成14年	江の島頂上部再整備事業
平成15年	サムエル・コッキング苑オープン
平成16年	新江ノ島水族館リニューアル
平成24年	江の島頂上部広場再整備

2 魅力アップ・プランの策定について

(1) 目的

藤沢市や神奈川県をはじめ、地域が一体となり「湘南江の島」の魅力づくりに取り組んできた結果、新たなにぎわいや活力の創出が見られますが、今後もこれを維持し拡げていくためには、将来の姿を見通し、残された課題などを解決し、その魅力をより強固なものとする必要があります。

このため、藤沢市と神奈川県は、湘南江の島の「将来像」の実現に向け、3の(2)に示している「「将来像」の実現に向けた取組み」に沿って、今後「優先的に取り組むべき施策・事業」を魅力アップ・プランとして策定し、地域の関係者ととともに、湘南江の島の新たな観光戦略を展開していきます。

さらにこの中で、取組みの緊急性が高く、早期の実現が待たれているものや、事業の熟度が高くアピール度が期待できるものなどを明確にします。

(2) プランの名称 「湘南江の島魅力アップ・プラン」

(3) 策定の期間と考え方

本プランは、概ね10年間の中期を見据えた計画として示していきます。

- ア 広域観光拠点である「藤沢市域内の湘南海岸沿岸を含めた江の島周辺」を対象とすること
- イ 地域の関係団体の協働・連携の取組みであること
- ウ 市や地域でのこれまでの取組みや今後の取組み方向を踏まえること
- エ 実効性を重視した取組みであること
- オ 民間の力や地域の力が最大限に発揮されること

3 「湘南江の島魅力アップ・プラン」

(1) 湘南江の島の「将来像」

自然と歴史に富む景勝地江の島と風光明媚な湘南海岸は、首都圏に近いという地理的条件に恵まれており、国際化時代に対応できる観光地として、少子高齢・人口減少社会を迎える中で国民誰もが身近に訪れたい観光地として、また横浜、箱根、鎌倉と連携した広域的な観光拠点として、発展の可能性が高い地域です。また、自然・歴史・街並みが残る良好な住宅地が形成されている地域でもあります。

首都圏の観光地としての継続的な発展と、湘南地域のさらなる活力創出に向けて、湘南江の島のもつ地域資源を活かし、市民、地域団体、事業者、行政などが連携協力し、湘南江の島の魅力をアップする取組みを住宅地との共存を踏まえながら、一層推進します。

そのため、湘南江の島の魅力アップをめざす「将来像」を、

「四季を通じて訪れたい湘南江の島・・・」

自然と歴史、海辺や街並みなど多彩な魅力が織りなすまち」とします。

(2) 「将来像」の実現に向けた取組み内容

湘南江の島の「将来像」を実現し、観光客をさらに拡大していくために、「観光振興に向けた施策の基本方向」を定め、また、喫緊の課題である東日本大震災を踏まえた観光客を含む災害時の対策に取り組めます。

なお、別紙1ではこれら施策等の項目をエリア別にまとめ、さらに別紙2では計画策定時（改訂時）から概ね3年間で重点的に取り組んでいく事業を「湘南江の島魅力アップ・プラン」に基づく事業展開として整理しています。

ア 観光客が楽しめるおもてなしの体制と拠点づくり

(7) 四季を通じて訪れる観光客誰もが、安心して楽しめるために、おもてなし（＝ホスピタリティ）の体制や魅力ある拠点の充実を図ります。

- ・湘南港ヨットハウス（管理事務所）新築事業（完了）
- ・稚児ヶ淵レストハウス改修事業（完了）
- ・江ノ電ガーデンパーラー・亀ヶ岡広場改修事業（完了）
- ・かながわ女性センター跡地の有効活用
- ・観光資源としてのニエアル記念広場の有効活用
- ・安全・安心の環境整備

- （江の島島内の防犯カメラの設置（完了）・各海水浴場の秩序維持とモラル向上・観光ガイドマップ（改訂版）への広域避難場所等の明記（完了））
- ・片瀬東浜（東浜海水浴場）の下水道整備促進（完了）
- ・江の島ポンプ所の改良（完了）
- ・湘南海岸公園、辻堂海浜公園、鵠沼海浜公園などの活用
- ・新たな観光資源づくりの検討
 - （江の島を中心にロケツーリズムの実施）
- ・江の島の玄関口の魅力アップづくり

(イ) 外国人観光客、障がい者や女性など誰もが楽しめる観光地として、環境整備を図ります。

- ・おもてなしの向上
 - （外国人観光客への対応・サインの見直し・オリンピックパラリンピックに向けた受け入れ体制の充実）
- ・女性客の誘客
 - （江島神社、岩屋などのパワースポット、フラダンスなどに注目した誘客プログラム開発の検討）
- ・新たなツーウェイツーリズム（双方向の交流）の推進
 - （東京湾、相模湾クルージング、大型客船の寄港など海上交通を利用した新たな観光商品の開発の検討（平成 27 年度以降は東海汽船(株)による大島航路（増便））・アルピコ交通のバスツアー運行）
- ・湘南モノレール湘南江の島駅へのエレベーター設置（完了）
- ・片瀬江ノ島駅及び駅前広場の再整備
- ・公衆便所の環境整備

イ 江の島を中心とした湘南海岸の周遊性の確保

(ア) 江の島島内では、頂上部への観光に加え、島内全体を周遊できるように、観光拠点の充実と、周遊機能の確保を図ります。

- ・湘南港ヨットハウス（管理事務所）新築事業（完了） 再掲[※]
- ・かながわ女性センター跡地の有効活用 再掲
- ・江の島島内の交通対策
- ・江の島島内などの新たな周遊機能の検討
 - （龍野ヶ岡自然の森の整備事業（完了））

※「再掲」とは前述があることを意味します。

(イ) 江の島を中心に湘南海岸を周遊できる交通機能の確保を図ります。

- ・片瀬江ノ島駅前広場の交通機能の確保
(障がい者や高齢者が利用する車両、タクシー・ミニバス（環境配慮型）、一般車両等の乗降場確保等)
- ・周遊観光船べんてん丸船着場のリニューアルの推進（完了）
- ・湘南海岸沿岸を結ぶ公共交通の検討
- ・自転車で周遊しやすい環境整備の検討
- ・江の島を含めた湘南海岸沿岸の街並み・歴史・自然を感じる周遊環境整備

ウ 広域的な連携強化による観光の活性化

(7) 湘南江の島と首都圏や、横浜や箱根などの県内観光地との交通アクセスの向上をめざします。

- ・片瀬江ノ島駅及び駅前広場の再整備 再掲
- ・JR東日本、小田急電鉄、江ノ島電鉄、湘南モノレールとの観光活性化に向けた連携強化
- ・湘南海岸沿岸を結ぶ公共交通の検討 再掲

(イ) 海浜観光地として、新たな海上交通による連携の強化をめざします。

- ・新たなツーウェイツーリズム（双方向の交流）の推進 再掲
(東京湾、相模湾クルージング、大型客船の寄港など海上交通を利用した新たな観光商品の開発の検討（平成 27 年度以降は東海汽船(株)による大島航路（増便）、館山航路）・アルピコ交通のバスツアー運行)

(ウ) 鎌倉との周遊観光の促進を図ります。

- ・江ノ島電鉄など鎌倉と連携した取組みによる周遊観光の促進

エ 多様な主体の連携による魅力アップ

(7) 湘南江の島の地域資源を生かし、市民、地域団体、事業者、行政などが各々の役割を分担しながら、連携協力により、魅力アップを図ります。

- ・景観の維持保全
(国道 134 号など公共施設の景観重要公共施設への指定（完了）)
- ・藤沢市、神奈川県、観光協会、観光事業者、漁業関係者、地域団体等との連携による新たな魅力づくりの検討
- ・地域の関係団体との協働・連携によるまちづくりの推進

(津波避難計画に基づいた訓練と検証)

- ・中・長期を見据えた砂浜の侵食対策

オ 観光客を含む災害時の対策

平成 23 年 3 月の東日本大震災では、藤沢市域内の湘南海岸沿岸を含めた江の島周辺にも大津波警報が発表され、また、江の島弁天橋の通行止めなどにより、島内に多くの観光客が残されるという事態が発生しました。

また、平成 27 年 3 月に県が公表した津波浸水予測図では、相模トラフ沿いの海溝型地震（西側モデル）で、江の島付近に最大津波高 11.5m の津波が想定されています。東日本大震災以降もさまざまな取組みを実施してきましたが、「湘南江の島」に多くの観光客が安心して、繰り返し訪れてくれるようにするためにも、さらなる「湘南江の島」における津波等災害時の対策に取り組んでいくことが求められています。

- ・湘南港ヨットハウス（管理事務所）の修正設計を行い、屋上に「津波避難施設」を設置（平成 26 年度供用開始）
- ・避難経路を示した津波避難マップの配布や看板の設置
- ・地域ごとの津波避難計画の作成
- ・江の島島内全体への情報伝達手段の確保
- ・津波避難訓練の充実
- ・津波避難対策の拡充
- ・避難経路（江の島島内の道）の整備（平成 24 年度から一部施工）
- ・津波避難ビルの指定の拡大

<参考>これまでの災害時の対策の取組み

- ・湘南海岸公園に、沿岸市町への先導的モデルとして津波避難タワーを設置（平成 24 年 6 月末設置）
- ・津波浸水予測区域や標高及び津波避難ビルを示した津波ハザードマップを配布（平成 26 年 3 月）
- ・江の島島内での津波避難訓練の実施（平成 24 年 1 月、平成 27 年 2 月、平成 28 年 2 月、平成 29 年 2 月）
- ・江の島島内へ防災行政無線の屋外子局を増設
- ・津波避難訓練の実施（平成 24 年 7 月、平成 25 年 7 月、平成 27 年 2 月、平成 27 年 11 月、平成 28 年 11 月、平成 29 年 11 月）